



安積二小だより

創立 150 周年 「花と緑と思いやり ひとみ輝く 二小の子」

郡山市立安積第二小学校
学校便り No.19
令和7年10月14日
文責：校長 齋藤和彦

陸上交歓会～みんなよくやった！

8日(水)市内6年生 約4,300人が一堂に会して陸上競技交歓会が開成山陸上競技場で開催されました。6年生全員が競技選手です。リニューアルされた競技場トラックを全力で駆け抜けてきました。(応援も見事！)

50m種目のわずか 10 秒に全力をかける選手たち。個人種目選考..手にしたユニフォームを着て..全力を尽くす代表選手たち。

これまでの練習にも、競技にも、応援にも全力で取り組んだ者にしか見るこゝ(感じるこゝ)ができない..特別な景色を味わってきてほしいと願いました。※緊張の中..聞こえてくる「あさ～か二小！(手拍子)」スタンドからの大声援。ドキドキしてスタートラインに立ったこと。全力でがんばる仲間の姿を追って、ゴールの瞬間まで応援し続けた一日。最後の女子リレー決勝で..また応援結束！



6年生のこのような本気の姿は、やっぱり下級生のあこがれの姿なのです。業間や放課後に、6年生の真似をして、棒切れをバトン代わりにリレーする下級生たちが、次の安積二小代表選手になっていくのです。



「応援のリード役は、ぼくがやります！」～1000m走選手選考にかなわず悔し涙した..スタンド応援団長〇君がいます。

『あさ～か二小！(手拍子)』この応援は、こうして誕生し、全員に波及した応援です。スタンドでは、周辺の学校が笑顔でふりむき..一緒に二小を応援してくれたり、「自分たちもあんな応援をしよう」との影響を及ぼしました。(すてきなことです)

「スタンドからの応援がうれしくて、走りながら涙がでていました」こんなエピソードもこの日の宝です。

・ ・ 仲間に応援される人になってほしい。
(仲間を心から応援できる人が..される人に)

<今日から「業間マラソントイム」Start！>

業間の校庭は、11月11日～持久走記録会に向けてがんばる姿の輪が広がっています。

持久走は、「つらい」「嫌い」という子も少なくないのですが、“動きを持続する運動”として自分の力に応じた目標をもって最後まで走る..ちょっとくらい苦手でも、不安でも、当日にスタートラインに立って走りきった..ゴールした！

『私は(ぼくは)逃げずにがんばったぞ！』～こんな経験を得ることができるのも、学年の仲間皆ががんばるからです。(学校だからです)

順位や入賞がどうこう..よりも、お父さんががんばりぬいた、その姿そのものが尊いのです。

◆◆ 校長室より ◆◆ ～子どもを思う..お母さんの心～



「先生..どうしてマラソン大会やるの？」～マラソン大会まで2週間..ある女の子(2年生)のこぼれ話でした。この女の子は、運動が苦手なわけではない子でした。体育のマラソン練習も学級女子16人中、常に4～5番。「いやだなあ..」授業中の表情もうつむきかげんに..。友だちに聞いても「??」本人と話しても「・・・」マラソン大会3日前。絵の仕上げで数人の仲良しが居残りしていた教室の話題は、「家の人が応援に来てくれるんだ」「入賞だと、たまごっち何とかバージョン買ってもらえるんだあ！」～楽しそうな雰囲気でした。

その子の家は共働きで、なかなか授業参観出席もむずかしい家庭でした。2年生だということにお弁当を自分で用意してきたこともありました。(でも、〇さんのことを想う姿は学級通信の返信から十分に伝わるお母さんでした)

私が電話で〇さんの様子を伝えると、お母さんは、すぐに理由を察してくれました。(さすがです)

「マラソン大会だから見に来て..友だちみたいに応援してほしい..」～「ごめんね。仕事の都合で遠くに..」

・・・大会当日朝、〇さんは、「おはようございます！」元気に..以前の明るい顔で教室に入ってきました。

「先生にだけだよ。みんなには言わないで。」と、靴下を脱いで見せてくれました。

『フレ！フレ！〇ちゃん がんばってね。お母さん』小さな足の裏にマジックで書いてありました。

〇さんは懸命の走り、ゴールに帰ってきました。学年女子30人あまりの中で、確か..5位でした。

ご褒美をねだる〇さんでも、物で褒めるお母さんでもありません。この日、夜遅くに仕事から帰ってくるお母さんと〇さんとのすてきな様子を想像しました。私の忘れられない保護者「お母さんの心」です。